

## 第3回日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ 臨床疫学研究助成 募集要項

わが国においては、高齢者人口の増加と生活習慣の変容に伴い、循環器疾患が増加し、その予防対策が重要な課題となっています。日本心臓財団と日本循環器管理研究協議会（日循協）では、アストラゼネカ株式会社の協力を得て、循環器疾患の予防に関する臨床疫学研究助成を実施いたします。日循協では、必要に応じて研究アドバイザーを配置して、研究を応援します。

### 1. 対象分野および対象者

#### 1) 対象分野

循環器疾患に対する一次～三次予防（発症予防、重症化予防、再発防止）のいずれかを目的とした臨床疫学研究。

#### 2) 対象者

医師・保健師・看護師・管理栄養士・栄養士・薬剤師等医療関係に携わる者。

#### 3) 対象となる研究

今後、応募者が主体となって調査・研究を行う臨床疫学研究であること。既にデータ収集が完了している研究は除く。

### 2. 助成金額および件数

総額 1,500 万円。研究期間は3年以内で1件最大 500 万円とし、数件。

### 3. 応募資格

1) 日本国内での研究に携わるわが国に在住する者。

2) 平成 26 年 3 月 31 日時点で 40 歳未満の者。

3) 同一研究テーマで他の助成を受けていない者。

（重複して助成金を受けたことが判明したときは、返金させていただきます。）

4) 助成対象に選出された場合、日循協会員となり、平成 26 年 7 月 20 日（日）21 日（月）に開催される第 50 回日本循環器病予防学会で研究概要を発表できる者。

### 4. 応募方法

所定の申請書（日本心臓財団ホームページ [www.jhf.or.jp](http://www.jhf.or.jp) より Microsoft Word 形式あるいは PDF 形式でダウンロードして下さい）に必要事項を記入し、捺印の上、オリジナル1部と写し6部、計7部を日本心臓財団あて送付して下さい。このほかに同じもの（捺印不要）を電子メールで [shinsei@jhf.or.jp](mailto:shinsei@jhf.or.jp) へお送り下さい。

なお、応募書類は返却いたしません。

## 5. 応募期間

平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 1 月 10 日

## 6. 応募にあたって

本研究助成は、医師に限らず、循環器疾患の予防に携わる方を対象としており、コメディカルの方の中には応募したいが、申請書の書き方等が不慣れという方もいるかと思えます。

日循協では、平成 25 年 12 月 7 日（土）にコメディカルの方々を対象に「健診・保健指導結果のまとめ方」を実施します。本セミナーに研究費を申請したい方向けの内容も含まれていますので、是非ご参加下さい。

## 7. 選考方法および発表

応募締め切り後、日本心臓財団選考委員会において選考します。本助成を幅広い職種に活用していただくため、研究課題・職種を考慮して選考します。対象に選出された者は、前述の日循協が開催する日本循環器病予防学会 (<http://www.jacd.info/50jscdp/>) において研究概要を発表していただきます。その後、助成金を交付します。

助成対象者に対し、日循協では、必要に応じて役員、評議員の中から 2 名程度をアドバイザーとして配置して研究の企画・実施・発表を支援します。また助成対象者は、研究（助成）期間中は日循協の会員となり情報交換および連携を図り、疫学・予防医学の発展と社会への貢献に努めていただきます。

## 8. 助成対象者の公表

助成対象者の氏名、年齢、所属、研究課題を日本心臓財団ならびに日循協の機関紙（誌）、ホームページ等に公表します。

## 9. 研究成果の発表

研究期間は 3 年以内とし、研究が複数年に及ぶときは、年度ごとに研究の進捗状況と収支報告書を日本心臓財団に提出いただきます。研究 2 年後および終了後は、日本循環器病予防学会において発表報告していただき、研究報告書は、日循協機関誌に掲載していただきます。全体の収支報告書は日本心臓財団に提出いただきます。

研究の発表には「日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ臨床疫学研究助成」であることを明記して下さい。

## 10. 問い合わせおよび申請書提出先

公益財団法人 日本心臓財団

〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4 階

電話 (03)5324-0810 FAX (03)5324-0822

e-mail: [shinsei@jhf.or.jp](mailto:shinsei@jhf.or.jp) <http://www.jhf.or.jp/>

## 臨床疫学研究助成のご案内

高齢人口の増加とライフスタイルの変化に伴い循環器病患者は増加しており、効果的な予防策を講じることは、喫緊の課題となっています。日本において循環器病を減らし、また増やさないためにどのような予防策が有効で効率的なのかを明らかにし、それらを継続的に実践することは、将来の国民全体の健康状態を改善する上で不可欠と考えられます。そのためには、循環器病に関する臨床疫学的な知見を積み重ねる必要があります。

日本心臓財団と日本循環器管理研究協議会（日循協）は、医師、保健師、看護師、管理栄養士、栄養士、薬剤師等を対象に日本における循環器病予防策を立てるために必要な臨床疫学研究を助成することにしました。臨床疫学研究は、成果を得るために地道な活動を年余に渡って継続する必要があります。本助成は、循環器病予防に貢献できる臨床疫学に携わる者を育成することも目的にしています。日本の循環器病予防に役立つ研究は、他の国にも貢献できるはずです。循環器病予防に熱意のある多くの方々からの応募を期待しています。

公益財団法人日本心臓財団  
社団法人日本循環器管理研究協議会